

水槽の扱い方

生き物を飼育する

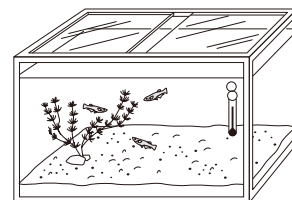
関連単元

2. メダカのたんじょう

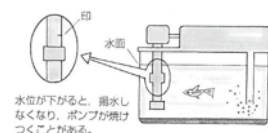
1

飼育するための準備

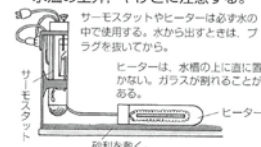
- 水槽の選択
 - ⇒ ガラス製かプラスチック製のものを用いる。
 - ⇒ ほこりが入らないようにふたがあるとよい。ふたがないと水が蒸発して減りやすいし、トンボなどが入り込んで卵を産むこともある。
- 水槽のセット
 - ⇒ 水槽の底には直径5～8mmの小石を3～4cmの厚さで敷き詰める。
 - ⇒ 水草を入れる。
 - ⇒ 水道水を用いるときは、塩素を抜き、温度をそろえるため、バケツなどにくみ置きし、1日ほど日光に当てたものを利用する。時間がなくてすぐに水道水を利用したいときには、市販の塩素除去剤を加えて中和させるとよい。
- ろ過装置が上方ろ過であれば、水槽の水を汲み上げマットでろ過し、水槽に戻す方式なので、ろ過しながら酸素の補給ができる。
- 水槽に魚を移すときは、魚だけを移すと弱りやすいので、ポリ袋に魚を入れたままの状態でもり袋ごと10～15分ぐらい水槽につけてから放すとよい。
- 置く場所は日光が直接当たらない明るいところで、コンセントの近くがよい。ろ過装置の電源コードが長くなると引っ掛けやすくなり、危険である。
- ヒーターを使う場合はやけどに留意して扱う。また、ヒーターが水槽に触れるとガラスが割れることがある。
- 水位の下がりすぎに注意する。(ポンプが空回りし、焼け付き・出火につながる)



水槽内の水位に気をつける。



水温の上昇、やけどに注意する。



2

生き物の世話のしかた

- 餌の与え方
 - ⇒ 1日に1回、決まった時間に、食べ残らないくらいの量を与える。
 - ⇒ 食べ残って沈んだ餌は水を汚す元になるのでスポイトで取り除く。
 - 魚の数は水槽の大きさに合わせる。たくさん入れ過ぎると、酸素不足や病気になるって死んでしまう恐れがある。
- 【目安】Sサイズ(30cm)→5匹, Mサイズ(40cm)→8匹,
Lサイズ(50cm)→10匹, (60cm)→25匹

3

水槽の手入れのしかた

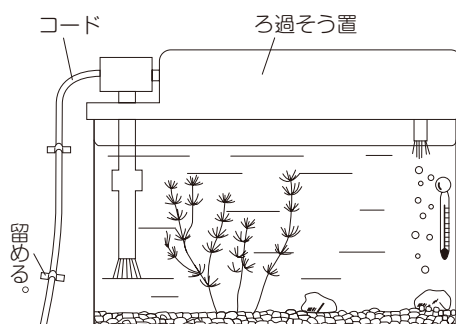
- ガラスの汚れは、布でふきとったり市販のコケ落としを使ってきれいにするとよい。
- セットした水槽はできるだけ移動させない。どうしても移動が必要なときは、水をぬいてから移動させる。
 - ⇒ 水を入れたまま移動させると、ガラスを割ったり、ガラスの継ぎ目がずれて水漏れが起きたりするの
- 水換えは、水が白く濁る、濃い緑色になる、水面に泡が多数浮く、魚が口を水面にあげるなどの状態になったときに行う。
 - ⇒ 入れ換える量：全体の1/3～1/2程度の水を新しい水と入れ換える。
- 水槽の修理
 - ⇒ 水漏れは、シリコン系の充填剤で補修できる。
- メダカは非常に神経質な魚で、過度の水替えはストレスを与えることにつながる。
- 感電防止のため掃除をするときはエアポンプとヒーターの電源を切る。

水そうのあつかい方

● 生き物をかう

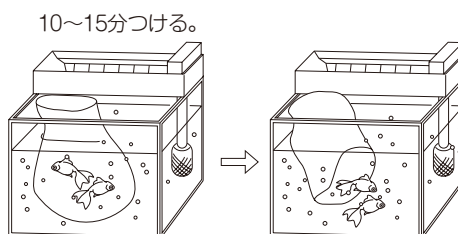
1 生き物（魚など）をかう準備

- 水そうは、日光の直接当たらない明るいところに置く。
- ろ過そう置のコードは引っかからないようにきちんと止めておく。
- 水道水を用いるときは、くみ置きしたもの（1日ほど日光に当てておく）を使う。カルキぬきを使ってもよい。
- 底には、じゃりや土をしきつめる。
- オオカナダモ・クロモやホテイアオイなどの水草を入れるとよい。



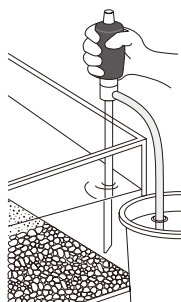
2 生き物の世話のしかた

- 魚を入れ過ぎない。
- 魚を水そうに移すときは、ポリぶくろに入れたまま、10～15分ぐらい水そうにつけた後、移す。
- えさは食べ残さない程度あたえる。
⇒ 底にえさがしずんで残っているのは、入れ過ぎである。
- 毎日魚を観察し、病気になっていないか死んでいないかを調べる。
- 水が減ってポンプが焼け付かないように気をつける。



3 水そうの手入れ

- 水そうはできるだけ移動させない。どうしても移動が必要なときは、水をぬいてから移動させる。
⇒ 水を入れたまま移動させると、ガラスが割れたり、水もれが起きたりする。



- 水がにごったり、あわがういたり、魚が口をぱくぱくさせたら水を入れかえる。
⇒ かえる水の量は、1/3～1/2程度にする。
- ⇒ ポンプを使うと水の入れかえが簡単ができる。ポンプのすい口にフィルターを付けておくと、じゃりをすいこまなくてよい。
- ガラスのよごれは、布などでふきとる。
- エアポンプとヒーターの電げんは必ず切ってから水をぬく。
- ヒーターでやけどをしないように気をつける。

